**令和５年度　教育事業**

# 「第 44 期はなやまボランティアスクール兼<br>自然体験活動指導者（NEAL）リーダー研修会」報告書

## １．趣旨

国立青少年教育振興機構が定める「法人ボランティア養成カリキュラム」に基づき、ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

## ２．事業の概要

（１）**期日**　令和５年５月 20 日（土）～５月 21 日（日）【１泊２日】

（２）**参加者**

**①参加対象**　ボランティア活動に興味関心を持つ方（一般の方・学生・高校生）　50 名程度

**②参加人数 52 名**

| | | 10 代 | 20 代 | 30 代 | 40 代 | 50 代 | 60 代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 7　名 | 5　名 | 0　名 | 1　名 | 0　名 | 0　名 | 1　名 |
| 女性 | 45　名 | 41　名 | 3　名 | 0　名 | 1　名 | 0　名 | 0　名 |

【参加者の所属先】

・岩ヶ崎高等学校・古川黎明高等学校・古川高等学校・宮城教育大学・宮城学院女子大学

・尚絅学院大学・東北福祉大学・仙台高等技術専門学校・岩沼市教育委員会事務局学校教育課

## ３．企画運営のポイント

○先輩ボランティアをグループリーダーとして配置することで、身近なメンターの役割を期待した。

○講義の中にもグループワークを設け、参加者が主体的に関わる機会を創出した。

○安全管理の講義・演習では、赤十字社宮城県支部による心肺蘇生法の演習を行うだけではなく、KYT を用いて野外を想定した講義を取り入れることにより安全への意識を高めた。

## ４．日程　「法人ボランティア養成カリキュラム」科目名で記載

| | 5 月 20 日（土） | 5 月 21 日（日） |
|---|---|---|
| 午前 | ＜開講式＞　9:30<br>＜講義Ⅰ＞　9:50～10:50<br>「青少年教育施設の現状と運営」<br>〔講師〕　国立花山青少年自然の家　所長<br><br>＜説明Ⅰ＞　11:00～12:00<br>「青少年教育施設におけるボランティア活動」<br>〔担当〕　国立花山青少年自然の家　職員<br>先輩ボランティア | ＜講義・演習Ⅱ＞　9:30～12:30<br>「安全管理」<br>〔講師〕　赤十字社宮城県支部　指導員<br>〔担当〕　国立花山青少年自然の家　職員 |
| 午後 | ＜講義Ⅱ＞　13:00～14:30<br>「青少年教育」<br>〔担当〕　国立花山青少年自然の家　職員<br><br>＜講義・演習Ⅰ＞　15：00～19：00<br>「ボランティア活動の技術」<br>花山プログラム体験：野外炊事<br>〔担当〕　国立花山青少年自然の家　職員 | ＜説明Ⅱ＞　13:30～15:00<br>「登録制度について」<br>〔担当〕　国立花山青少年自然の家　職員<br>＜閉講式＞　15：00<br>「修了証授与」 |
| 夜 | ＜講義Ⅲ＞　19:30～21:00<br>「ボランティア活動の意義」<br>〔担当〕　国立花山青少年自然の家　職員<br>先輩ボランティア | |

## ５．主な活動内容

① 講義Ⅰ「青少年教育施設の現状と運営」

② 講義Ⅱ 「青少年教育」

③ 講義・演習Ⅰ「ボランティア活動の技術」

④ 講義Ⅲ「ボランティア活動の意義」

⑤ 講義・演習Ⅱ 「安全管理」

⑥ 講義・演習Ⅱ 「安全管理」

## ６．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：90.4％　やや満足：9.6％　やや不満：0.0％　不満：0.0％

（２）参加者の声

・年齢の異なる参加者と活動ができ新鮮で刺激がたくさんあった。
・声を積極的にかけてくれたので、やりやすかった。
・ボランティアに真剣に向き合うことの大切さを学んだ。

（３）成果

・主体的に参加できるワークを多く取り入れたことにより、参加者の意欲を高めることができた。
・大学への訪問広報の効果もあり、多くの学校から参加者を募ることができた。
・職員や先輩ボランティアとの対話の機会を増やすことで、参加者との一体感を作り出すことができた。

（４）課題

・参加者の男女比が大きく、男性参加者から不安の声があった。チラシの見直や広報を工夫することで解消していきたい。
・申込締め切りから 14 名のキャンセルがあった。参加者への丁寧な連絡を行い、少しでもキャンセル者が少なくなるよう努める。

担当：事業推進係　髙橋　諒